

虹色



第3号



進路希望調査の提出、ありがとうございました。

先週は、進路選択において1つのターニングポイントとなる1学期期末テストがありました。実力をうまく発揮することはできましたか。さて、先週、進路希望調査を締め切りました。皆さんの漠然と思い描いていた進路が、書類に記述することにより目標が明確になったのではないかと思います。第1回進路希望調査は、まさにまっさらなキャンパスに「私の進路」というテーマで、鉛筆で薄く下絵を描くようなものではないでしょうか。実情に応じて下絵を修正しながら、絵の具（勉強）で色（学力）をつけていきましょう。

6/12

上級学校の先生に話を聞く会

疑問

高校受験対策法 part.1

今週12日(水)に上級学校の先生に話を聞く会が行われました。専修学校から、菊武ビジネスの末武先生が、私立高校からは栄徳高校の山本先生が、公立高校からは長久手高校の奥川先生がそれぞれの立場からの特徴についてのお話をされました。

専修学校については、社会の一員として自立できるように専門的な技能を習得させるとともに普通科と同様な学習も行うとのことでした。

私立高校については、指定校推薦枠を私立高校はたくさん確保していること、授業後の補習や勉強会など塾に通わなくても面倒を見てくれる体制が確立されていることなどが印象に残ったのではないのでしょうか。

公立学校については、ご家庭の経済的負担が専修や私立に比べて少ないこと、生徒たちに自主性を持たせ学校生活を送らせること、大学など他機関との積極的な関わりがあることなどを話されましたね。

全体を通して理解しておきたいことは、推薦入試の違いですね。私立は、推薦入試で定員の50~80%程度を確保するため、一般受験よりも入学しやすくしています。しかし公立受検は、一般受検だけで多くの生徒を確保することができるため、定員の10%程度の推薦枠しか用意されておらず、そこに学習面や運動面でとくに優秀な生徒を確保しようとするため、一般受検よりも合格するのが難しくなります。私立・専修と公立とでは推薦入試の仕組みが全く違うんですね。

そして、最後に、どこの学校に行っても先生たちは情熱を持って全力で皆さんと向き合ってくれます。今は、まず志望校を考えることです。自分に本当にあった学校にいけるといいですね。今は、情報収集の時ですよ。焦らず、志望校を考えていきましょう。

ここでは、進路についての悩み事に対して、どのように対処していけばいいのかを数回にわたり、紹介していきます。初回は「どんな教材を使えばいいの？」です

これに対する返答は、
ノート（攻略本）である！



「ノート」という呼び方を変えてみましょう。ノートは「攻略本」。ゲームをしていたら攻略本がほしくなります。攻略本には、こういう攻め方をするとどのくらい得点できて、ここに隠れキャラがいて…、ということが詳しく書かれています。ノートも同じです。「ノート」「問題集」、あれも一種の攻略本です。自分で「社会攻略本」「数学攻略本」とよんでしまえばいいのです。重要どころには、「裏技」を書いておけばいいのです。みんな裏技が大好きです。方程式や公式、年号の語呂合わせは裏技です。「表技」でいく人は、根気よく計算しますがそれでは間に合いません。数学は実は暗記です。暗記するから九九ができるのです。インド人には19×19を1秒で答えます。インド人にとっては、魔法でも何でもありません。答えをすでに暗記しているからです。勉強は、魔法を覚えるようなものなのです。社会の「悪魔」もまさに攻略本です。だから皆がほしがるとですよ。受験勉強で最も最強のアイテムは、間違いなく「ノート」ですよ。

